

国際シンポジウム 2011.12.09
国際的共同学位による新たな人材育成の可能性

アジア共同学位開発プロジェクト Asia Joint-degree Project

(東アジアにおける国際的教育指導者共同学位プログラムの開発研究)

東北大学大学院教育学研究科

プロジェクト・リーダー 教授：本郷 一夫

共同学位開発の構想

国際水準のアウトカムの質保証

連携大学との協議を通して、大学院教育の質を保証し、質の高い教育指導者を養成する

- 単位認定基準の明確化
- タームペーパー・修士論文の質の共同管理・質保証
- ポートフォリオによる学習歴の管理

研究・教育交流の深化

研究者交流: 研究上の交流に加えて、教育上の交流

- 共同学位プログラムの共同開発により研究者のネットワークが深化する

学生交流: 日本人学生の意識変革

- アジア諸国の学生との共同の学びを通して、世界に目を向ける次世代リーダーを育てる

ネットワーク形成: 国境を越えた人的ネットワークの構築

- 人的ネットワークを形成するには、単位互換や短期留学よりも、共同学位が有効

なぜ東アジアなのか？

急成長する東アジア 膨張する留学需要

留学需要の急成長が見込まれる東アジア

爆発的な増大が見込まれるアジア地域の留学生 200万人(2010年)から500万人(2025年)に

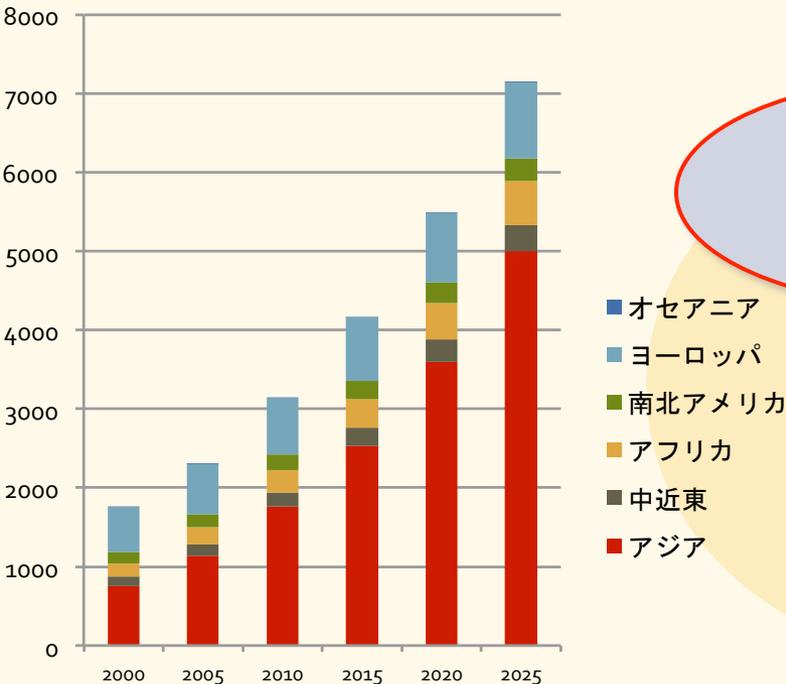
多文化共生社会の創成:新しいアジアの時代に向けて

共通の教育課題と多様性。日本・中国・韓国・台湾などの地域とASEAN10ヶ国 + α

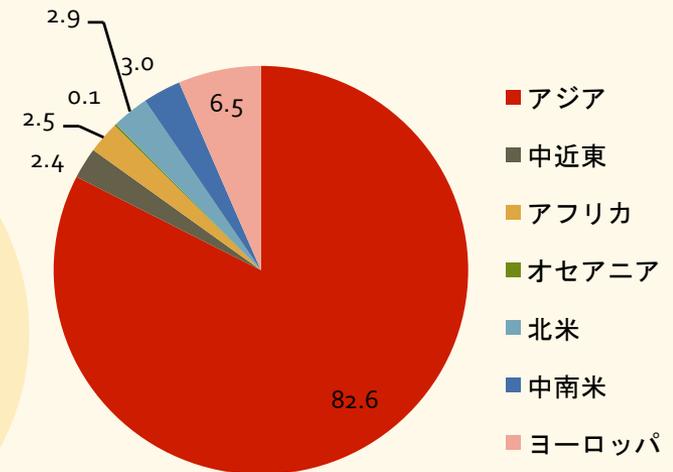
東アジア及びASEAN諸国と連携しながら東アジアの次世代リーダーを養成

東北大学の留学生の8割はアジアから

地域別留学需要の予測 (単位:千人)



東北大学の留学生 出身地域別割合 2009年調査 (単位:%)



どのような国際的教育指導者なのか？

これらの課題に応えるためには

1. 必要とされる人材

- ・教育研究者：東アジアの教育の現状を的確に分析できる人材
- ・教育行政関係者：東アジアを中心に世界の教育改革を視野に収め、政策立案に携わることのできる人材
- ・リーダー教員：東アジアの教育課題を認識し、教育現場で教育実践を担うことができる人材

2. 必要とされる資質と能力(KASP)

- ・高度な専門的な知識 (Knowledge)
- ・アジアに対する理解と共感 (Attitude)
- ・研究技法と言語「母語＋英語＋ α 」(Skill)
- ・世界に開かれた人的ネットワークの形成と情報発信(Practice)

人材育成の現状：2極化

「国際」と「国内」の両面を見据えて、アジアに関心を持つ人材育成が課題

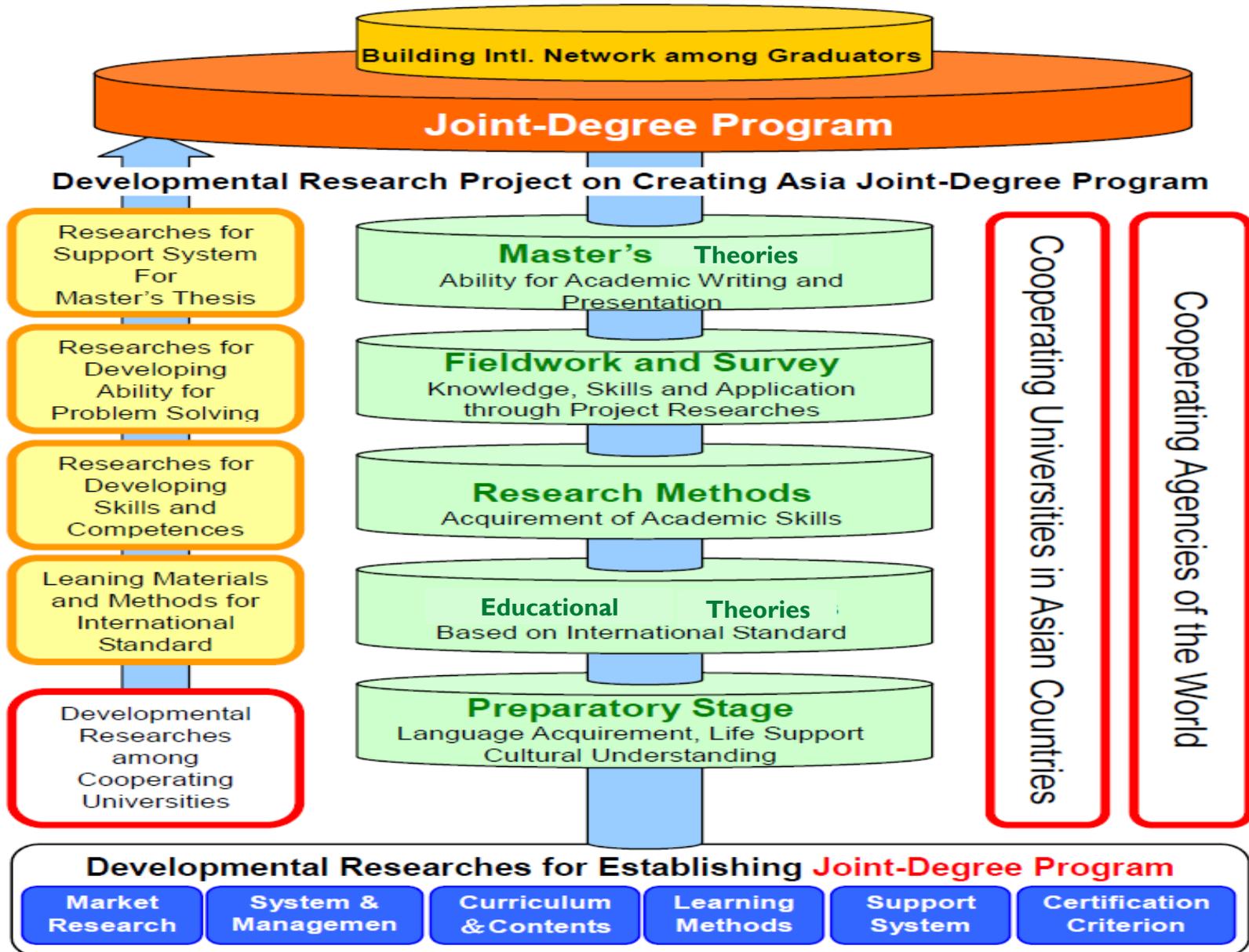


現状では、こうした人材を養成するシステムは皆無

1. 教育行政関係者、リーダー教員は、国内に閉ざされた養成システム
2. 教育研究者、国際機関職員は、基本的に欧米で養成・リクルートされるシステム
 - ・欧米志向が強く、東アジアへの関心は弱い
 - ・教育研究者の場合、東アジアの現実課題に対応する人材養成システムは弱い
 - ・国際機関職員(教育職)のメイン・ストリームは開発教育が主で、東アジアのニーズとミスマッチ
3. 現状では、東アジアの教育課題に応じる国際的教育指導者養成プログラムは皆無

東アジアを拠点として、東アジアの教育をリードする教育研究拠点形成は喫緊の課題

カリキュラム例



東北大学における研究拠点の構成

教育学研究科長

教育学研究科教授会

事業実施代表者
(兼 教育ネットワークセンター長) 1名

プロジェクト全体会議
18名

プロジェクト推進会議
9名

専任教員 2名
外国人客員教員 2名～4名
教育研究支援者 2名～3名
事務補佐員 1名

人間形成論

教育政策科学

成人継続教育論

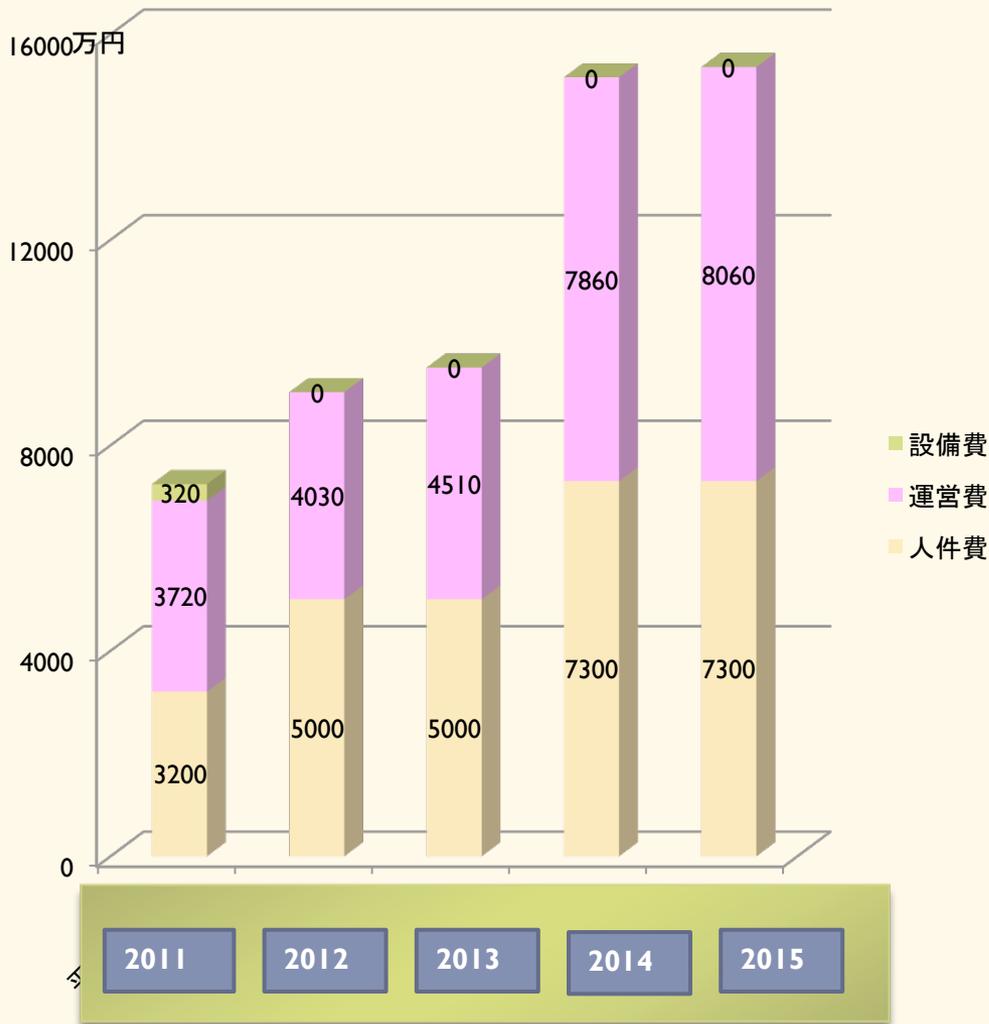
総合教育科学専攻・教育設計評価専攻6講座

教授学習科学

人間発達臨床科学

教育設計評価

人的体制と予算



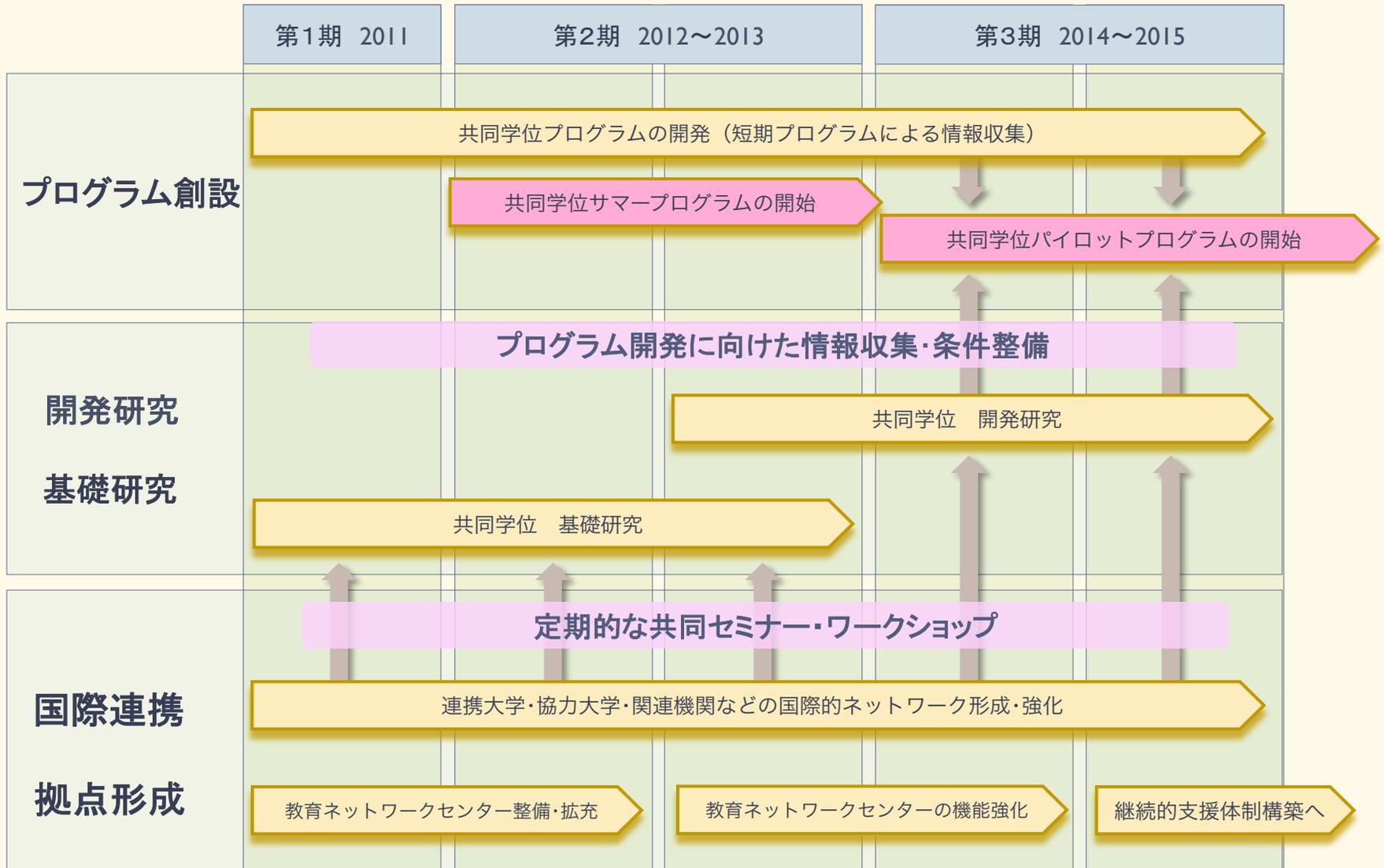
○プロジェクト全体会議
教員18名より構成

○プロジェクト推進会議
教員9名より構成

年度	11	12	13	14	15
専任教員	2	2	2	2	2
客員教員	2	2	2	4	4
教育研究 支援者	2	2	2	3	3
事務員	1	1	1	1	1

総額 5億6300万円

本事業の年次計画



予想される研究成果の波及効果

共同学位プログラム開発研究拠点形成による
人的交流の促進・深化・ネットワーク形成

共同学位プログラムによる国際的教育指導者の組織的養成の開始
日本発の東アジア型エラスムス・ムンドゥス計画の実行

日本の高等教育機関の国際的魅力的向上

共同学位創設・運営のノウハウの他研究領域への転移

各大学との連携の水準

Level 1

研究交流

Level 2

部局間協定の締結
学生交流

Level 3

単位互換
ダブル・ディグリー

Level 4

共同学位

